

【優 秀 賞】



氏 名 マルケス マーゼル
国・地域 フィリピン
在日期間 1年10ヵ月
所 属 九州日本語学校

タイトル：私らしく

こだわりの強い人。一言でいうなら、私はそういう人です。真面目で、ルールを守らないと自分に厳しい。「なぜ」と聞かれたら、どんな小さな規則であっても、そこには、より良い社会になるための目的があるのだから、従うほかないと思うのです。

「信号無視はダメ。安全のため、正しいタイミングと横断歩道をちゃんと渡る。」

「割り込みはダメ。先に入って待っている人に対して無礼なことだ。」

「カンニングはダメ。そんなことをしても、騙せるのは自分自身しかない。」

これは、私の主義のほんの少しです。当たり前なのに聞こえるかもしれませんが、きちんと守っている人は意外と少ないのではないのでしょうか。しかし、こんな原則にこだわる私は、周りからずっと変な人のように見られてきました。

どうして？私は、おかしい？ただ、当たり前のことをしているだけなのに。

ある日、友達と出掛けました。道を渡らないといけない時、

「横断歩道はあっちだよ。」と私が言いました。

「えっ わざわざそっちに行く必要ないじゃない？ここで渡ろうよ。」と一人の友達が答えました。

「危険だからいやだ。」私は、絶対に反対しました。

ここで渡るかあっちで渡るか、言い合いになりました。結局、私が皆の手を引いて横断歩道の方に行きました。もう一人の友達が「もう、真面目すぎよ、マーゼル。」と言ってため息をつきました。そう言いながらも皆は、私の頑固な行動に付き合いました。わがままだと思うかもしれないけど、私のこういう面倒なところを友達はよく知り、私と付き合い方をわかっています。

しかし、他人は、そうはいかないでしょう。たとえば、駅のホームで割り込んでいる人に「列に並んでください。」と言えば、まるで私が悪いことをしたかのように睨みつけられます。私のことを知らなくても、駅でのマナーはわかるでしょう、と言いたくなります。ルールやマナーを守ることは、皆幼いころから教わったはずなのに。

ところが、社会的なルールを誰もが守っている日本に来て、几帳面な自分がすんなりと馴染んでいるように感じました。「ここならもっと早く、自分らしく生きられる。」と思いました。もちろん、日本での生活は性格的にピッタリだけど、合わないこともありました。

私は、おしゃべりが好きです。時おり、周りを気にせずにゲラゲラ笑います。残念なことに、日本ではこんな行動は迷惑に見られます。ですから、初めて日本人に叱られたとき、私がショックを受けました。正直に言うなら、ちょっとイラツと感じました。ですが、それはしょうがないでしょう。日本の人は日本の規則に従う。日本に住んでいる私も、日本社会に適応するように努力するべきだ。それはそうですが、少し不本意でした。私がアイデンティティーを変えないといけないわけか、と考え込みました。

一方で主義によってルールを守りたい。かといって、ずっとやっていた行為は簡単には変えたくない。自分の中で矛盾が生じました。そして、私は、はっと気づかされました。それは、ほかの人もそうではないだろうか。

全ての規則を守る人なんていません。どんなに頑固な人でもいくつか従わない可能性もあります。こだわりの強い私ももちろんそうなのです。

矛盾があっても、悪くないと思います。

矛盾があっても、このままで生き続けたい。

矛盾があっても、いいんじゃない？

だって、これこそが私なんだから。

皆さん、お互い矛盾だらけかもしれないけど、自分らしく生きましょう。

ご清聴ありがとうございました。

